

91歳「ポッチャ」に夢中

「ポッチャ」ってスポーツがあるのをご存じですか。なんと河内長野のチームが強いのです。大阪大会で好成績をあげている「障がい者福祉センターあかみね」のポッチャクラブを訪ね、その魅力に触れてきました。

辰巳 茂さん (荘園町)



1999年の大阪ポッチャ大会で優勝し翌年、選手宣誓しました

脳梗塞に負けず！ 大阪大会でみごと優勝

その日は3人が1チームで4組が対戦。写真を撮らせてほしいと言うと「着替えてきたらよかつたなあ」と話しながら和やかな



辰巳さん宅の玄関には陶芸品が並んでいます

秀囲気の中、メンバーで一番高齢、91歳の辰巳茂(たつみ・しげる)さん(荘園町)にお話を伺いました。
宝塚市にいた60歳の時、脳梗塞になり、旧国立大阪南病院のある当市に転居。奥さん(一昨年死去)から家に居てはダメと言われる「錦溪苑」で碁を打っていましたが、娘さんが家から近い「あかみね」を見つけ利用するようになりました。

「ポッチャ」ってなあに?

ポッチャは脳性麻痺などにより運動に障がいがある競技者向けに考案された障がい者スポーツ。パラリンピックの公式種目となっていて、40カ国以上に普及しておりヨーロッパ発祥とさ



白いジャックボールに近い赤球、青球の数を競う競技で、今まさに最後の赤球を投げたところ。みんな真剣に見つめています

れ、ベタンクやローン・ボウリングから発展したとされています。個人、ペアないしは3人が1チームで行い、赤または青の革製ボールを投げ、ジャックと呼ばれる白い球にどれだけ近づけるかを競うものです。ボールは投げる、蹴る、転がす、補助具を使ってもいいのです。

辰巳さんは「最後の1球で逆転したことが最高」と思い出を語りながら、「あかみね」に来ると色々な人と出会えて気が晴れてうれしいとニッコリ。

辰巳さんは奥さんを亡くしてからは独り暮らしを続け、「自分で行きたいところがあっても1人で行けないのが一番の悩み」ですが、「あかみね」には娘さんが送り、送迎バスで帰ってきています。陶芸教室にも参加していて、自宅玄関には素敵な自慢の作品がずらりと並んでいます。

「あかみね」では

障がいのある方々の機能訓練の相談を行ったたり、講習会やクラブ活動、地域との交流を通じて社会参加活動を行ったりしています。

陶芸教室、料理教室、卓球クラブなどのデイサービス事業に人気があり、玄関ロビーには各種教室やクラブ活動のポスターがいっぱい張り出されています。年間利用者は1万9千人ですが、その4割がボランティアの活躍によるものです。

(箱根早苗・有賀登喜子)